

ふるさと再発見！

vol. 18

ほろほろわかやま

FREE



巻頭
特集

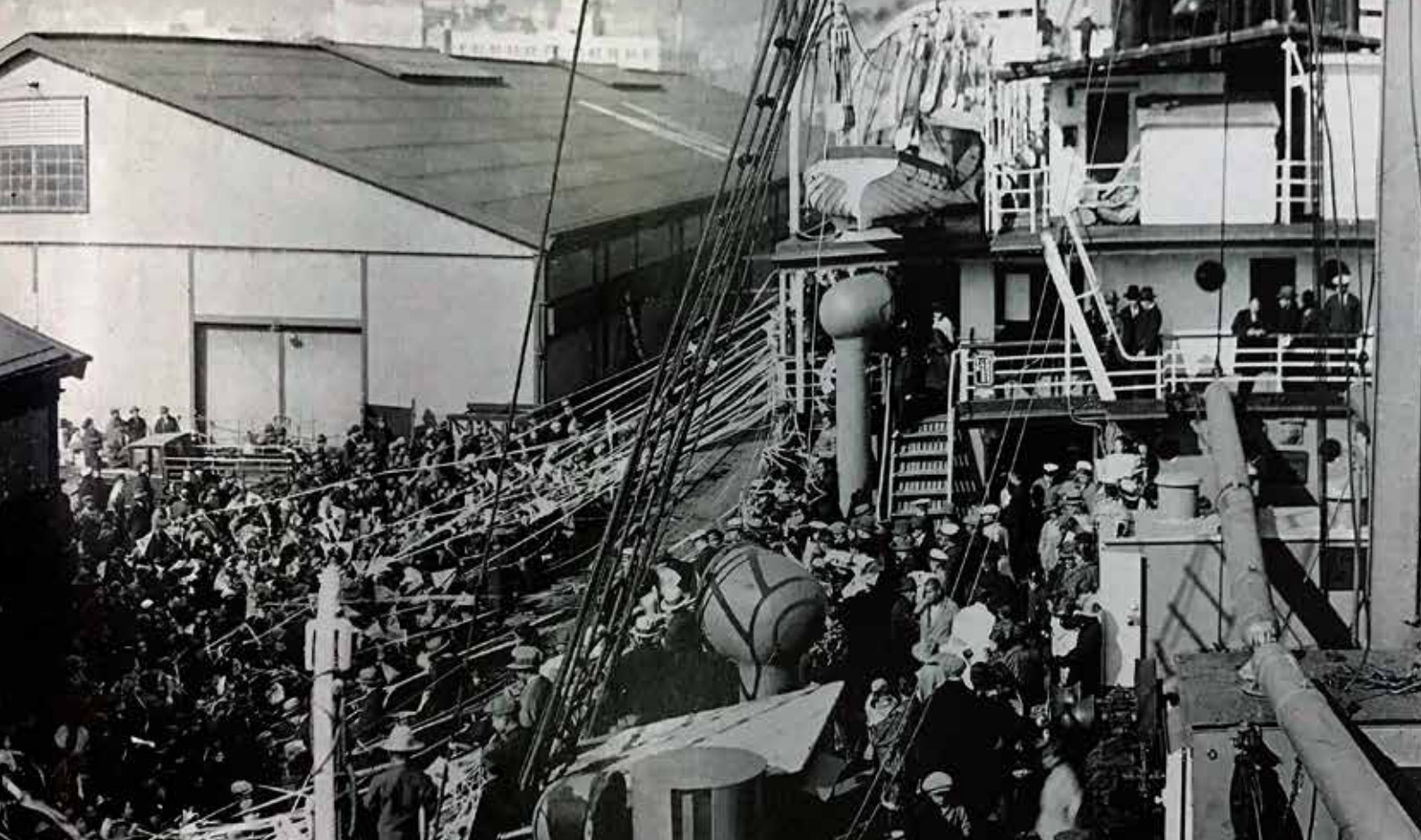
新天地をめざして

和歌山県における
移民の歴史

散策
歴史
文化

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

悠久の歴史と文化が息づく新宮まち歩き
紀州の正月は申柿で
技術を引き継ぐ者たち。～棕櫚束子～
海・山・川が輝く「世界遺産のまち 新宮市」



神戸港出帆「在伯同胞活動実況写真帖」
竹下写真館 所収（和歌山市民図書館蔵）



移民神戸港出帆利那の光景
「在伯同胞活動実況写真帖」竹下写真館 所収
（和歌山市民図書館蔵）

新天地を めざして

～和歌山県における移民の歴史～

明治維新により江戸時代が終焉をむかえ、日本で初めての海外移住から百数十年もの時がたつ。移民輩出人口が全国6位といわれている和歌山県民であっても、移民の歴史を知る若い世代は大変少なくなっている。新天地を求め、海を渡った人たちは、世界各地の移住先でどのような歴史を歩んできたのか…。私たちは移民の歴史を忘れないで、後世に伝える必要があるだろう。

移民のはじまり 世界へ旅立つ

日本最初の海外への集団移民は、1868年（明治元）にグアム島へ40人余り、ハワイへ153人が渡航したことがはじまりとされている。1885年2月の第1回官約移民で953人のうち22人の和歌山県民がハワイへ渡っている。同年6月の第2回官約移民では983人のうち33人の県民が含まれている。1898年にハワイ王国がアメリカに併合され、日本人のアメリカ本土への渡航が自由になった。開拓の途上で労働力が不足し、それを補うため移民を歓迎していたカリフォルニアへの移住者が次第に増えていった。

和歌山県の紀南地方からはカリフォルニアへ多くの人々が渡航した。ロサンゼルス港の一角にあるターミナル島では、3000人ほどいた日系



ブリキ缶 バン・キャン・シーフード社
ジョセフ・フェラー口撮影
(太地町歴史資料室 提供)

コミュニティの大半を紀伊半島沿岸部の漁村出身者が占めていた。彼らは、日本文化を守りながら、漁師や缶詰工場などの漁業関連の仕事を生業とした。

その当時のカリフォルニアで水揚げされたビンナガマグロのほとんどが日本人漁師の捕獲したものであり、マグロ缶詰の一大生産拠点をつくりあげた。ターミナル島から生まれたアメリカにおける代表的なツナ缶のブランド「チキン・オブ・ザ・シー」は、現代でもアメリカ人に愛されている。オーストラリアにも和歌山県民は多く渡っており、高級ボタンの材料とされた白蝶貝の

尾の出身者たちが鮭漁に従事し、彼らのコミュニティはカナダの三尾村と呼ばれていた。カナダ移民のパイオニアである三尾村出身の工野儀兵衛は、白人の事業主に依頼され、毎年数十名の村民をカナダに呼び寄せ、三尾村では「つれもてい

採取に従事した。オーストラリア北岸にあるダーウィン・ブルーム・木曜島の3地域は有数の採貝地で知られていた。特に木曜島で従事する日本人900人のうち、約8割が和歌山県民であったとされる。

カナダの西部にあるスティブストンでは日高郡美浜町三



ターミナル島で従事する漁師 (太地町歴史資料室蔵 提供)

こら」という合言葉が流行したという。カナダから帰国した人々は英語まじりの言葉で話し、西洋様式の暮らしを取り入れたことから、日本の三尾村は「アメリカ村」と呼ばれることになった。

南米のブラジルにも多くの県民が移住しており、新天地を求め多くの人々が世界各地に旅立っている。日本人の勤勉さゆえ、優秀な労働力として移住先に認められ活躍した。

戦時中の移民の困難

第二次世界大戦の勃発とともに、各地の移民たちの生活は一変することになる。

1941年の旧日本軍による真珠湾攻撃を機に、ターミナル島では日系一世である日本人会の男性幹部たちがFBIに連行された。翌年には島に残っていた日系二世や女性たちの全員に、島からの立ち退き命令が下され、多



洗濯場
ヘンリー・杉本作、年代不詳写真
原本：油絵水彩 キャンパス 額縁
(和歌山市民図書館蔵)

くの人々が収容所のひとつであるマンザナー収容所への移動を余儀なくされた。ターミナル島に移住していた人々は今まで築きあげてきたすべてのものを失ったが、不自由な収容所の暮らしの中でもさえも、日用品や工芸品などをつくりだすなどさまざまな活動を行った。



昼食前の列
ヘンリー・杉本作、年代不詳 原本：油絵水彩 キャンパス 額縁
(和歌山市民図書館蔵)

和歌山市出身の画家ヘンリー・杉本もアメリカで収容されたひとりである。収容所にあつたシャツをキャンパスにし、わずかな手持ちの絵具で



日系人強制退去命令ポスター (複製 個人蔵)

収容所の暮らしを描いた。多くの絵画は歴史的な資料としても価値が高く、後世に当時の実情を伝えている。

アメリカだけではなくブラジルを含めた多くの南米の国々は、米国の要請に応え日本との国交断絶を宣言した。日系人が社会の一角を占める規模になっていたブラジルでも戦争の影響がはじめた。

日本の同盟国であるドイツ軍によってブラジル商船が撃沈され、激昂した市民が、枢軸国人の家屋を破壊、放火する事件が起きた。身体的特徴が目立つ日系人の保護を理由に移民たちは隔離収容されるこ

とになる。戦争が激しくなるにつれ、スパイ容疑などで警察への拘引者が増え日系社会は激しく動揺した。ただ、人口が多く経済力が強い日系人の影響力を無視できず、米国やカナダと違いブラジル国籍を持つ日系人二世が弾圧されることはなかった。

戦後に多くの移民が渡った南米ブラジル

戦後に移住が活発に行われたのは南米ブラジルである。

戦争により断絶していたブラジルへの移住は1953年（昭和28）に再開され、第



ブラジル自作農募集チラシ
海外移住組合連合会
(和歌山市民図書館蔵)

二次世界大戦の前後を通じ約6千人の和歌山県民が移住している。和歌山県からは戦後に多くの人々がブラジルに渡った。この移住再開に尽力したのが、和歌山県日高郡岩代村（現みなべ町）出身である松原安太郎である。

松原は1918年に移民通訳としてブラジルに渡り、当時のヴァルカス大統領とも親交が深かった。1952年（昭和27）に一時帰国していた松原は、合計2万人をブラジルに受け入れる移住計画の実行を日本政府と進め、全国から移民を募集していた。

和歌山県は全国でいち早く1953年に移民課を立ち上

げ移住を支援した。和歌山県では、有田川の大洪水により紀中地域一帯が大きな被害を受け、多くの人々が途方にくれており、その後、多くの被災者がブラジルへ渡ることになった。

移住者たちはブラジルの生活に大いなる期待をしていたが、現実の暮らしは過酷なものであった。移住地では広大な原生林が広がっており、人が歩く道を切り開くことからはじめなければならなかった。家を建てるまで仮住まいのテントで雨風をしのぎ、開拓のため木々を伐採し山焼きを行うなど重労働を続けた。マラリアなどの病気にも苦しみ

られたが、いくつもの困難にも諦めることなく、一歩ずつ自分たちの未来を切り開いていった。

明治からはじまった移民の歴史は、百数十年以上を数えており、和歌山県にルーツを持つ多くの人々が世界各地に暮らしている。和歌山県を故郷と想う移住した人々のためにも、私たちは次世代に、先人の歴史を伝えていく必要があるのではないだろうか。

監修	東 悦子 (和歌山大学観光学部 教授 和歌山大学紀州経済史文化研究所 所長)
取材協力	(公財) 和歌山県国際交流協会
資料提供	和歌山市民図書館 太地町歴史資料室
参考資料	「移民と和歌山」先人の軌跡をたどって 発行／和歌山大学紀州経済史文化研究所
表紙写真	提供元は本文中に記載。



三年樹珈琲園の手入れ
「在伯同胞活動実況写真帖」竹下写真館 所収
(和歌山市民図書館蔵)



サントス港についたぶえのすあいえす丸
「在伯同胞活動実況写真帖」竹下写真館 所収
(和歌山市民図書館蔵)

東京オリンピック 招致に貢献した 日系人

幼少期は和歌山で育つ

“フレッド・イサム・ワダ”日本名は和田勇といい、アメリカ合衆国の実業家で和歌山県にルーツを持つ日系二世である。勇はアメリカに移住していた和歌山県出身の移民であった両親から生まれた。両親の経営していた食堂が軌道にのらず、家族の生活は大変苦しいものだった。幼少期に祖父母に引き取られ和歌山県御坊市で暮らす。数年後アメリカに戻った勇は、12歳でシアトル郊外の農園に住み込みで働いた。17歳のときサンフランシスコの青果店に移り、仕事ぶりが認められ店長に抜擢される。その後独立を果たし、オークランドで青果の屋台をはじめ。様々な野菜を見栄え良く陳列するという当時は画期的な手法で店は大繁盛し、オークランドの日系人の間では一目置かれる存在となった。

スポーツ界と親交を持ったきっかけ

その後、勇は和歌山県出身の夫人と結婚し、オークランドの日系人社会でも中心的存在となっていた。順風満帆な人生を送っていたが、日米開戦となり、多くの日系人が強制収容所への移動を余儀なくされる中、今まで積み上げてきたものが崩れ去ることになる。勇は収容所へは行かず、ユタ州に移り終戦まで農業を営んだ。

戦後はオークランドに戻らず、家族でロサンゼルスに移住しスーパーマーケットを経営する。ここでも商才をいかんなく発揮し、17店舗のチェーン店を構えるまで繁盛した。

1949年にロサンゼルスで開催された全米水泳競技会に日本人選手が出場することになった。戦後間もないということもあり宿泊拒否や暴言を吐かれるなど、反日感情がいまだ高い中、日本人選手の宿舎として自宅を提供

することになった。勇の手厚い支援を受けた日本の選手団は世界記録をたたき出し、優勝する大活躍振りでアメリカ人を驚愕させた。これを契機に日本のスポーツ界とも深い親交をもつことになった。

東京オリンピック招致に貢献

1958年東京オリンピック招致準備委員会が設立されると、日本のスポーツ界から懇願され日系アメリカ人として唯一招致委員に就任した。

東京へのオリンピック招致を成功させるために、中南米の国々へ自費で夫人と訪問し集票活動に邁進した。その甲斐があって、劣勢とされていた開催地投票を制し、東京オリンピック開催が決定することになる。

東京オリンピック開催に多大なる貢献を果たしたとし、勲四等瑞宝章が贈られている。

聖火が国立競技場に灯ったとき、和歌山弁まじりの日本語でこうつぶやいたと言う。「日本はこれで一等国になったんや。戦争に負けて四等国になったけどよう立ち直ったなあ。日本人は皆よく頑張ったなあ。」

その後は、ロサンゼルス港湾委員会委員に就任し、和歌山下津港をはじめとする日本の多くの港と貿易協定を結ぶことにも貢献した。ロサンゼルスオリンピックの招致にも参加するなど、経済界、スポーツ界ともに多大な功績を残した。

晩年の勇は、日系人引退者ホームの建設と運営に情熱を燃やした。日系人一世は、パイオニアである。見知らぬ土地で言葉も分からず、文化や習慣が違う社会で苦勞を重ねてきた人たちである。仕事を引退し、介護が必要となった一世の人たちに、安心して生活してもらいたいと、和田勇は願った。



悠久の歴史と文化が息づく新宮まち歩き



和歌山県の南東部に位置する新宮市。

望郷詩人ともいわれた文豪 佐藤春夫が「空青し 山青し 海青し」と讃え、

熊野三山のひとつである熊野速玉大社の門前町として古くから栄えてきた。

まずはJR新宮駅をスタート。駅前広場の一角に「鳩ぼつぽ歌碑」がある。

広場から北東方向にすぐ見える極彩色豊かな中国風楼門が「徐福公園」の入口だ。園内を散策した後、公園の裏口から出て「阿須賀神社」へ向かった。

ここは熊野参詣で多くの人が訪れた阿須賀王子跡で、境内には「歴史民俗資料館」もある。

次に向かったのは「新宮城跡」だ。城郭はないが立派な石垣に登れば、熊野川から熊野灘までも見渡せる。

石段を下って西にすすむと国道42号線にでる。地下道を利用して国道を

越えて更にすすむと「熊野速玉大社」の大鳥居に到着する。

参道を通って神門をくぐれば、朱塗りで彩られた社殿が立ち並び、周囲の木々とのコントラストが美しい。

熊野速玉大社の駐車場には「佐藤春夫記念館」が隣接している。道路を挟んだ向かい側には、土産物店や飲食店が並ぶ「川原家横丁」があった。店先のミカンに惹かれて立ち寄り休憩した後、国道へと戻って南下する。

裁判所前交差点で右折し、案内看板に沿って「神倉神社」へ向かった。

鳥居から急勾配の石段が森の中へと伸びていた。源頼朝が寄進したという石段538段を登りきれば、社殿に覆いかぶさるように御神体のゴトビキ岩があった。眼下には新宮市街を一望する絶景が広がる。日本書紀によると、

ここ神倉山は熊野の神々が最初に降臨した場所で、後に現在の社地に移されたとされる。こちらを「元宮」、熊野速玉大社を「新宮」と区別したことが地名の由来になっているそうだ。

神社を後にして国道へ戻り、裁判所前交差点から西へ向かう。「浮島の森」への案内看板に沿って住宅街を北上していくと、沼地に浮かぶ森があらわれた。ジャングルのような島内は、実際に歩くことができる。住宅街にあるとはとても思えない不思議な空間を満喫して、新宮駅へと戻った。

今回のコースは約6kmと長く、途中には石段を上り下りするスポットがあるため、レンタサイクルを利用することをおすすめだ。

今回、新宮市街を一望する絶景が広がる。日本書紀によると、

熊野速玉大社の御神体「ゴトビキ岩」が圧巻。ゴトビキは地元の方でヒキガエルのこと。

熊野速玉大社の御神体「ゴトビキ岩」が圧巻。ゴトビキは地元の方でヒキガエルのこと。

熊野速玉大社の御神体「ゴトビキ岩」が圧巻。ゴトビキは地元の方でヒキガエルのこと。

熊野速玉大社の御神体「ゴトビキ岩」が圧巻。ゴトビキは地元の方でヒキガエルのこと。

⑨ 神倉神社

地上から約60mの絶壁にある熊野速玉大社の御神体。山の上に鎮座する巨大な御神体「ゴトビキ岩」が圧巻。ゴトビキは地元の方でヒキガエルのこと。



⑤新宮城跡(丹鶴城公園)

丹鶴山上にあった新宮城(別名 丹鶴城)。現在は石垣のみが残る公園で天守台からの眺めは格別。春は桜の名所として賑わう。



④新宮市立歴史民俗資料館

阿須賀神社の境内にある資料館。蓬萊山周辺や境内で発見された遺跡の出土品を中心に展示している。



③阿須賀神社

『日本書紀』の神武東征神話にも登場する神社。宮司は篠笛の名手で、運がよければその音色を聴かせてもらえるかも。



②徐福公園

徐福の墓を中心に整備された公園。秦の始皇帝の命により不老不死の霊薬を求めて渡来した徐福は、この地に永住し、大陸からの文化や農耕・漁業の技術を伝えた。



⑩浮島の森(入場料100円)

住宅街のなかにある沼地に浮かぶ島。その大きさは南北約50m、東西約90m。寒暖両性の植物130種余りが自然混生する国の天然記念物。



⑨神倉神社

①鳩ぽっぽ歌碑

新宮市出身の東くめは、明治32年に日本初の口語による童謡「鳩ぽっぽ」を作詞した。代表作は「お正月」や「雪やこんこん」など。



レンタサイクル 500円/日

新宮市観光協会(新宮駅構内)
TEL 0735-22-2840
徐福公園
TEL 0735-21-7672



⑧川原家横丁

江戸時代から昭和初期にかけて熊野川河川敷に多く軒を連ねていた川原家を観光名所として再現。川原家とは、増水時に解体しやすいよう釘をほとんど使わずに組み立てられた家(店)のこと。



⑦佐藤春夫記念館

大正・昭和に活躍した新宮市出身の詩人・小説家 佐藤春夫の東京旧宅を移築・復元したもの。直筆原稿や愛用品などが展示されている。



⑥熊野速玉大社

熊野三山の一社。境内にある「熊野神宝館」には約1200点もの国指定文化財が保管展示されている。御神木として樹齢1000年とされる榊の巨木がある。



紀州の正月は串柿で



干し柿の産地は全国津々浦々数あれど、正月の縁起物・串柿と言え、
紀州・四郷（伊都郡かつらぎ町）が日本一の産地として名高い。
しかし、串柿がどのようないわれで正月飾りの地位を得たのか、
また、なぜ四郷が産地なのか、はっきりしたことは分かっていない。
串柿の里・四郷には、それらをうかがわせる伝承や暮らしぶりが、今でも残っている。

正月飾りとして

正月の縁起物としておなじみの鏡餅・橙、串柿のセットは、古くから三種の神器を模していると言われてきた。そのうち、串柿は「草薙の剣」に例えられ、正月飾りとして欠かせないものだ。

また、串柿には数合わせによる意味づけがある。最も一般的な10個の串では、真ん中に6個、縄をはさんで左右に2個ずつの干し柿を通し、「いつもニコニコ（2個・2個）仲むつ（6個）まじく」または「夫婦（2・2）仲む

つまじく」の意味を込める。5個の串もあり、これには真ん中に3個を通して「ひとりひとり（1・1）がみんな（3）幸せに」の意味がある。

串柿づくりのあれこれ

四郷の串柿づくりは、10月末から11月ごろに始まる。使われる柿は、先のとがった細長い形の青曾柿という渋柿。渋柿は身が締まっているので、串に刺すときにすべりにくいという。

串柿の作り方は、収穫からヘタ取り、皮むきを行ったあ





家屋の2階につるす姿もみられる

と、串に刺す。刺した串を10串ずつ縄で編んだあと、柿屋につるして自然乾燥させる。ある程度乾燥したら、棒で押して厚みと形を整える「手入れ」という作業に移る。現在はプレスローラーという機械で均一に仕上げることができているが、かつてはすべて手作業だった。

乾燥と手入れを繰り返し、乾燥が進んだ柿は、藁で包むなどして静置し、白い粉が表面を覆うといよいよ出荷となる。文字にすると簡単だが、地元の農家によると、かつて



秋から冬、里は串柿一色に

は村全体で行う共同作業だったという。

「あの家の皮むきが終わると、次はこの家の串刺しという感じで、みんなで協力してやりました。その時期の生活は串柿一色で、年中行事のようでしたよ」。

今はそれぞれの農家で行うようになった串柿作りだが、晩秋から初冬にかけて、里が串柿一色になることは変わらない。



串柿と秀吉



四郷の仕事歌

四郷には、夜なべ仕事の気晴らしに歌われた「柿仕歌」が伝わっている。柿を串に刺す作業の際に歌われたもので、歌詞はそれぞれの家で異なる部分もあったようだが、村の共同作業の雰囲気をつかがわせるものである。

しょうがいばあさま やき餅やすきで
ゆうべ九つ けさ七つ
さまの声きや ねむた目もさめる
さまは目医者か 目ぐすりか
わしの親方 前からきつい
ひなか休みの ひらおそい

串柿がなぜ正月飾りとして定着したのか。串柿の里には、その疑問に答えるヒントとなりそうな民話が残っている。

秀吉が天下人となった頃の正月、大阪城で新年を祝う酒盛りがあった。宴は三日三晩続き、家臣たちもさすがに酔いつぶれてしまった。

こんな時に敵の不意打ちを食らったらひとたまりもないと、秀吉が頭をかかえていたところ、ひとりの大将が「串柿には酒の悪酔いを覚ます効き目がある」と進言した。

秀吉はすぐさま床の間の鏡餅の上に、串柿を飾るよう命じた。それからというもの、大阪城では串柿は正月のお祝いに欠かせないものとなり、やがてどの家でも飾るようになったということだ。

技術を 引き継ぐ 者たち。

しゅろたわし

— 棕櫚束子 —

和歌山県海南市はトイレ・バス・キッチン用品といった家庭日用品で全国の8割というシェアを誇っている。

そのルーツは「野上谷(のかみだに)」*で始まった棕櫚を使った和雑貨(簾・束子・縄など)作りにある。

今回は、現在でも地元野上谷産の棕櫚束子を作り続けている高田耕造商店さんからお話を伺った。



高田英生 氏

地場産業

としての棕櫚

1930年ごろから家業として棕櫚製品の加工を行い、1948年に先代の高田耕造氏が創業、棕櫚束子の製造を開始した。

現在は2代目の高田英生氏が代表を務め、二人の息子と共に棕櫚製品の製造・販売を続けている。

棕櫚産業の一大拠点として栄えた野上谷だったが、代用品として東南アジアから安価なパーム(ヤシの木の繊維)の輸入や、化学繊維を使ったスポンジたわしが台頭するようになり、手間のかかる棕櫚製品は作られなくなってきたという。

高田耕造商店でも、一時はパームでの製造に切り換えざるをえなかった。しかし、「棕櫚の良さを知ってもらいたい」と一念発起し、棕櫚製品の製造を再開した。

だが、棕櫚を使った製品作りには様々な課題があった。昔は一山全てが棕櫚だった山も、今ではほとんどがスギやヒノキに植え替えられ棕櫚自体が少なくなっていること。手入れのされていない棕櫚はそのままでは製品としては使えない、その棕櫚を管理し皮を剥く職人がすでに別の職に就いていなくなっていることなどだ。

英生氏はまずかつての職人に声をかけたが、最初は皆に断られたという。しかし、毎日のように彼らの元に通い説得を続けるその熱意に、一人二人と協力してくれる人が現れ、今では製品にできるだけの棕櫚を確保することができるようになった。



* (海南市東部(北野上、中野上、南野上)から野上町及び美里町の一部に及ぶ地域の総称)



やさしいたわし

国産の棕櫚は皮の状態であるため、製品にするには繊維状に捌く必要がある。そのために当時使っていた機械の部品をかき集め作り直した。

一般に知られているパームで作られた束子に比べると、棕櫚束子は繊維が柔らかくてコシが強く、型くずれがしにくい。また水にも強いいため、普段よく使う水回りでも長く

使用することができる。

さらに製品を作る際、1本の繊維の品質をチェックし、太い繊維を抜き取ることで、均一な柔らかさになるよう調整が行われる。

こうして作られた束子は食器洗いなど水回りの作業はもちろん、ジャガイモや大根の泥落としにも利用でき、汚れは落としても皮を傷つけず栄養を損ねないと料理人からの評価も高い。

柔らかさの基準は「人の肌を洗えること」。身体を洗えるほど繊維で柔らかい束子であれば、何に使っても余計な傷をつけることなくやさしく洗うことができる。実際に高田耕造商店では、代表の英生氏はもちろん、従業員たちも入浴時のマッサージなどに利用しているそう。使えば使うほど柔らかく馴染んでくる束子は愛用者も多く、一度使った客が自分や知人のためにピート購入することもあるという。



時代に合わせた製品作り

「今はお客さんが使い分けをしていく時代になっている」と英生氏は語る。

同じ束子であつても、その用途に合わせて使いやすい形・柔らかさは変わってくる。それを共に考え提案することです。それぞれの要望に合った商品を作っていく。

今では従業員一丸となって様々なアイデアを出し、従来の束子のイメージを払拭するようなドーナツ型・ハート型のオシャレな束子やストラップに使える小さな束子まで、120種類以上の商品を作っているそう。

また、全国を周り束子巻き体験などを通して棕櫚束子の魅力を伝える活動や、地元の小学校から工場見学に来てもらい、かつて棕櫚で栄えた町の地場産業を知ってもらう普及活動も続けている。



取材協力 高田耕造商店

〒640-1173 和歌山県海南市棕木97-2
TEL:073-487-1264
URL:<http://takada1948.jp/>

郵便はがき

640-8790

和歌山市梶取 17-2

株式会社 ウイング
「ほうぼわかやまクイズ
& プレゼント」係



差出有効期限
平成30年3月
31日まで

ふりがな				
お名前				
年齢	歳	性別	☒ 男 ☐ 女	ご職業
ご住所	〒			
電話番号				
クイズの答え	1 ・ 2 ・ 3 ※あてはまるものを1つお選びください。			
本誌の入手場所				

※応募くださいました個人情報は、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。

海・山・川が輝く

『世界遺産のまち 新宮市』

新宮市長 田岡 実千年

新宮市は、日本書紀などで熊野神邑とよばれ、熊野信仰の中心都市として栄えました。中世には、「熊野速玉大社」の門前町として発展し、明治以降は熊野材の生産地として、製紙業や製材業で繁栄しました。

世界遺産の熊野古道中辺路「大雲取越」「小雲取越」「高野坂」や川の参詣道「熊野川」など、熊野の海や山や川の織りなす豊かな大自然は素晴らしく、文化的な面においては、佐藤春夫や中上健次、東くめ、西村伊作といった多くの人物を輩出するなど、文化・芸術への関心は高く、現在でも、それは受け継がれています。



田岡市長



阿須賀神社の夜景

また、今年10月には、まちなかにある「阿須賀神社」が世界遺産に追加登録され、今後更なる観光・文化振興が期待されています。

熊野文化と豊かな自然を活かし、古今東西の全ての人と文化が集い、交流し、賑わいを見せる、まち全体が華やいだ都市づくりに努めております。

「人輝き文化奏でる都市」ここ新宮市で、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

編集後記

読者のみなさま、こんにちは。ほうばわかやまの18号をお届けします。今号も、「ほうばらしさ」を追求してみました。つまり、わかやまの文化・歴史でも「あまり知られていないけどスゴイ」という情報をお届けしたつもりです。いかがでしたでしょうか？

ぜひ、クイズに応募するついでに感想などもお聞かせいただけたことを、編集部一同、楽しみにいたしております。

ところで、おかげさまで年に2回、休むことなく発行してまいりまして、ほうばわかやまも来年は10年の節目を迎えます。本当に早いですね。創刊当初からかわらせていただいておりますので、私も感無量です。そのあたりについての思いは、また、20号で書かせていただくと、実は何か記念になることを企画してみたいと思っています。もし、読者のみなさまからリクエストやご要望がございましたら、やはりクイズに応募がてら、ぜひお聞かせいただけたらと嬉しく存じます。

では、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

第18号編集長 岡 京子



株式会社ウイング/印刷物を中心に販売促進のお手伝いを専門とする会社で、「ほうばわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。自費出版のご相談はウイングまで！
[沿革] 創業1972年。設立1981年。

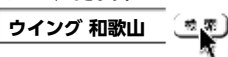
「ほうばわかやま」発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

ほうばわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp>

お問い合わせ先 ☎0120-136-700



協力機関

本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。
(順不同・敬称略)

和歌山大学 (公財)和歌山県国際交流協会 和歌山市民図書館
大地町歴史資料室 新宮市 高田耕造商店

クイズとアンケートで 当たる!!

クイズにお答え頂いた方の中から抽選で「たわしストラップ」を1つ

合計10名様にプレゼント!!

問題

カナダから帰国した人が多く住んでいた三尾村の俗称は？

ヒント

本号のどこかに答えが載っています

①スペイン村 ②ドイツ村 ③アメリカ村

Vol.17の答えは「①春姫」でした。

応募方法

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函(切手は不要です)もしくはメールにてご応募ください。 houbou@w-i-n-g.jp

メ切

2017年3月末日



本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。